

第2部：10:25～11:45

「生涯教育実践研究交流会」の意義と使命

—「仕掛け人」に聞く組織化の手順・方法・成果と実態—

北海道と中国・四国・九州地区で続いて来た手弁当の生涯教育実践研究交流会はようやく全国に広がりを見せようとしている。福岡を会場とした交流会は35年目を迎えたが、一貫して「実践者」の交流と「実践」の研究に焦点を当ててきた。社会教育は、学校教育に比して予算も行政組織も小規模で、定例化した事業方法も組織も確立しているとは言い難い。にもかかわらず、その守備範囲は巨大であり、その成否は社会の未来を決定する。重責を担って、時に実践者は孤立無援であり、地域を越えた連携を模索し、同志の繋がりを目標にして来た。近年誕生した各地の交流会の「仕掛け人」をお招きしてそのロマンと開発の実態をお聞きする。

登壇者：茨城県 鈴木 昭博(茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事)
高知県 坂井 孝吏(前高知県教育委員会事務局生涯学習課 主任社会教育主事)
大分県 中川 忠宣(大分大学 COC+推進機構 特任教授)
長崎県 降旗 友宏(元長崎県教育庁生涯学習課長、現内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)
コメンテーター：森本 精造(前交流会代表世話人、前飯塚市教育長)
コーディネーター：古市 勝也(中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人)

<【第2部】登壇者プロフィール>

●鈴木 昭博 茨城県(茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事)

茨城県古河市立小学校、五霞町中学校、古河市教育員会、国立那須甲子青少年自然の家勤務を経て、平成25年から現職に至る。平成27年度に関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場として「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催する。「学びを通しての地域活性化」の面で成果をあげている各県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合う交流会とする。

●坂井 孝吏 高知県(前高知県教育委員会事務局生涯学習課主任社会教育主事、現在 高知県大月町立大月中学校)

本交流会第34回大会から高知県実行委員。土佐清水市立中学校教諭を経て、平成24年度から平成27年まで高知県教育委員会事務局生涯学習課に在籍。平成27年度には高知県社会教育実践交流会を開催する。現高知県大月町立大月中学校。

●中川 忠宣 大分県(大分大学COC+推進機構 特任教授)

本交流会第22回大会～第34回大会の大分県実行委員。大分県教育庁生涯学習課社会教育監、大分大学高等教育開発センター教授を経て、本年度より大分大学COC+推進機構 特任教授となる。本交流会を大分県流に開催することを決意し、県教育委員会と、開催地の組織「東国東地域デザイン会議」で協議し、2年間の検討の末に、おおいた教育の日(平成17年3月31日施行)制定を受けて、平成19年度から地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会を開催する。

●降旗 友宏 長崎県(元長崎県教育庁生涯学習課長、現在 内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)

平成23年に文部科学省から長崎県教育庁生涯学習課長に就任。平成23年5月に現職・OBの社会教育行政関係職員や社会教育関係団体のメンバー等を中心に、「長崎県の社会教育の振興を図り、地域や家庭の教育力の再生」を目指した長崎県社会教育支援「草社の会」が結成、立ち上げ等を支援。以後、福岡県実行委員と共同して、会の主催事業「生涯教育まちづくり移動フォーラム」を実施。

●森本 精造 福岡県(前本交流会代表世話人 前飯塚市教育長)

福岡県社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長、本交流会の創設者。穂波町時代、西日本で初めて「学校選択制」を導入。全公立小学校に導入した穂波「子どもマナビ塾」、合併後の飯塚市では「熟年者マナビ塾」など多くの先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。前本交流会世話人代表。

●古市 勝也 福岡県(中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人)

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て、日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回から本交流会代表世話人を務める。